

水稻瓦版～秋の土づくり編～

稲刈りも終わり皆様作業お疲れさまでした。
農家さんからの声で「土がやせているような気がする」という声を多数聞きます。
今回は土づくり資材をご紹介します！



無事収穫ができました。

目的	肥料名	施用量(10a)	特徴
稲わらの腐熟促進	石灰窒素（窒素 20%）	10～20 kg	有機物を腐熟する微生物の増殖に必要な窒素と、分解する働きを良くする石灰が含まれているので効果的。
	アグリ革命アクア	100ml	酵素により、稲ワラの腐熟化を促進。液剤はオモダカ・クログワイなど難防除雑草対策の秋防除除草剤と混用可。
	アグリ革命	2kg	
けい酸の補給	農カアップ（けい酸 20%）	3～5袋	従来のけい酸質資材と比較して利用効率が良いため、2～3分の1で効果を発揮。
	ケイカル（けい酸 30%）	5～10袋	水には溶けず、水稻の根からでる有機酸に溶けて吸収されるので秋施用が効果的。稲体の抵抗力アップに貢献。
りん酸の補給	苦土重焼りん（りん酸 35%・けい酸 9.4%）	2袋	火山灰土壌や基盤整備圃場等には、く溶性りん酸を含んだ苦土重焼りんが効果的。

土づくりの方法

① 稲わらすき込みは遅くとも年内までに！すき込みが遅くなると次のような症状がでます。

- ア. 田植後、酸素不足（還元状態）により、鉄やマンガンが流れ出し根腐れをおこす。
- イ. ガスの発生により根の活力が低下する。
- ウ. 微生物が土壌中の窒素を先取りし、初期生育が悪くなる。

②有機物を施用する

堆肥などの有機物の施用により、土の物理性の改善、地力維持向上、土壌微生物が増えやすくなります。堆肥は 10a あたり 1t 程度の施用が一般的です。ただし、家畜糞尿の堆肥は肥料成分が多く含まれているので、基肥は堆肥の成分を考慮した量の施肥を行いましょう。



③深耕を実施する

一般的に耕起にはロータリーによる攪拌耕が普及しています。碎土・整地が同時に行え、作業性が良い一方で、浅耕になるため年々作土層の低下や耕盤が固くなる傾向が見られます。作土が浅いと①根が伸びにくい、②倒伏しやすい、③養分過多になりやすいなどの生産力の阻害要因となります。対策として、根の分布範囲を広げるためプラウ耕などによる深耕を行い、作土層の拡大を図りましょう。作土層の深さは15cm程度を目安に行いましょう。

④土づくり肥料を施用する

土づくり肥料は土壌の化学性や物理性を改善し、植物が生育しやすい土壌を作る資材です。例えば、石灰窒素は施用することで土壌微生物の働きを助け、稲わらの腐熟を促進させます。また、水稻はけい酸の吸収が多い作物のため、けい酸補給資材を施用することで稲の丈夫な体作りに貢献できます。土づくり肥料には目的に応じて様々な資材がありますので、目的に合った資材を使いましょう。なお、以下のような圃場は、りん酸・加里の土壌含量が少ないことが予想されます。土壌診断を実施し、足りない成分がありましたら積極的に施用しましょう。

- ア. 倒伏を回避するため、基肥及び穂肥の使用量を控えた水田
- イ. 一発肥料のみの施用で穂肥分の加里が不足している水田
- ウ. 稲わらを水田から持ち出し、堆肥を入れなかった水田
- エ. L型（窒素成分が高くりん酸、加里の低い）肥料を使用している圃場



10月から春肥料注文書の配布も開始致します！
肥料農薬等でご不明な点がございましたらお問い合わせ下さい。

JA西印旛経済センター 電話：0476-48-2207

当JAにご相談下さい！